

研究結果報告書

老女たちの物語：近現代日本とインドネシアにおける〈老い〉をめぐる言説分析

所属 インドネシア大学人文科学部日文学科
役職 講師
氏名 Rouli Esther

「老女たちの物語：近現代日本とインドネシアにおける〈老い〉をめぐる言説分析」研究を通じて発見・解明された内容

1. 取り上げた日本とインドネシアの女性作家による老いの描写は、弱くて、役に立たず、人の負担になるというより、逞しくて、生き甲斐を持ち、自立している。それに対して、老いる不安や内面の葛藤も描写されているが、最終的に逞しくて、自立した女性の描写の方が強い。
2. 「Around 40：注文の多い女性たち」、「結婚しない」、「働きマン」という日本テレビドラマの内容分析を行って、女性にとっては、三十代に入ってから、まだ結婚していないということは不安の一つの原因になっているということが明らかになった。また、結婚言説に繋がることによって、女性にとって、結婚は「若さ」と関連しているため、年を取れば取るほど、結婚相手を見つけるのが難しくなるという考えがあるということが分かった。結婚相手を探す時、女性にとっては、経済的自立と職場での成功はプラスになるより、逆にマイナスになる。それは、女性の価値は若さ、美しさ、生殖能力で評価されているから、経験の深さや仕事の成功や経済的な安定など、年を取れば取るほど得る可能性が高いものに価値がつけられていないからである。
3. 研究対象の雑誌である「美 ST」と「STORY」の記事分析は、エイジングケアの記事を中心にして行った。女性にとって、老いを受け入れるためには、素直に皺や艶のない肌や弛みを受け入れることでではなく、できるだけ老いに負けず、肌をいつでももつるつるで、若く見られるように保つための努力をしなければならぬというメッセージが読まれる。

この一年間の研究期間で行った研究は、主に日本文学作品・メディアのデータを中心にして行ったもので、今後は収集したインドネシア文学作品・メディアのデータをより生かして、研究を続ける予定である。

研究を通じて、以下の課題・将来に対するアドバイスは以下の通りである。

1. 日本・インドネシア文学における女性の老いをめぐる言説に関する比較研究はまだ多く研究されていないため、これからもより多くこの分野における研究が必要である。特にインドネシア文学における女性の老いをめぐる言説研究は非常に少ないため、こちらをより深く探るべきである。
2. 「老い」研究については、文学作品における女性の老いをめぐる言説研究だけではなく、各地域の社会自体が老いについていかに考えているのか、いかに思っているのかに関する課題を取り上げ、研究分野を広める必要がある。その第一の段階として、福岡で行われた University of Hawaii が開催した“*Incorporating Southeast Asia Perspectives into Japanese Studies*”ワークショップに参加し、University of Hawaii 側の研究パートナーと協力し、現在は日本高齢社会におけるインドネシア人介護福祉士をテーマにして、研究を進める予定である。
3. この一年間で行われた研究は、口頭発表・論文発表の形式で研究成果をまとめる。

研究成果の公表について

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1. *Freeter, Arafo, House husband: Shifting Values of Hegemonic Masculinity and Emphasized Femininity In Four Japanese Television Dramas*

発表者名：Rouli Esther Pasaribu

会議名：The 2nd Asia-Pacific Research in Social Sciences and Humanities-Universitas Indonesia Conference：“Culture and Society for Local and Global Sustainable Development”, Margo Hotel. Depok, September 27-29, 2017

2. *Re-creating The Myth of Ono Komachi :Re-defining Woman, Aging, and Selfhood in Enchi Fumiko’s Komachi Hensoo*

発表者名：Rouli Esther Pasaribu

会議名：The 3rd Asia-Pacific Research in Social Sciences and Humanities-Universitas Indonesia Conference：“Convention and Innovation in the Disruption Era”, JS Luwansa Hotel, Jakarta, August 13-15, 2018

3. 円地文子の『小町変相』とテュティ・ヘラティの『チャロン・アラン：家父長制度の犠牲者である女性の物語』：女性の視点における伝説の語りなおし

発表者名：ロウリ・エステル・パサリブ

会議名：東アジアと同時代日本語文学フォーラム（上海大会）、復旦大学、2018年10月20-21日

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

1. *Freeter, Arafo, House husband: Shifting Values of Hegemonic Masculinity and Emphasized Femininity In Four Japanese Television Dramas*

発表者名：Rouli Esther Pasaribu

論文掲載誌：PERTANIKA Journal of Social Sciences and Humanities（発表日時未定）

2. *Re-creating The Myth of Ono Komachi :Re-defining Woman, Aging, and Selfhood in Enchi Fumiko’s Komachi Hensoo*

発表者名：Rouli Esther Pasaribu

論文掲載誌：現段階発表準備の過程で、論文掲載誌名、発表日時未定。

3. 円地文子の『小町変相』とテュティ・ヘラティの『チャロン・アラン：家父長制度の犠牲者である女性の物語』：女性の視点における伝説の語りなおし

発表者名：ロウリ・エステル・パサリブ

論文掲載誌：『ボーダークロッシング日本語文学研究ジャーナル』2018年12月発表予定

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）

University of Hawaii の研究者と協力し、本の章を二章執筆する予定（出版日など未定）